

## 迎春登拝 三輪山の神々 歴史文化クラブ 古川 祐司

三輪山の一番美しい姿が眺められ奈良盆地の南と西の地は、古くから国中(くんなか)とよばれ、古くから初詣は三輪さんへお詣する風習があります。歴史文化クラブでも、有志が新春初行事として三輪山に登拝して、当会行事の安全と発展を祈願することにいたしました。

大神神社では三輪山そのものがご神体で、本殿がありません。拝殿の奥に三輪鳥居があり、そこから先は「甘南備」で禁足地となります。これはわが国で最も古い祀りの姿で、当社のほかにも、古い神社で本殿のない例が多くあります。石上神宮では「御本地」という禁足地があり、今の本殿は明治の造営です。春日大社には神護景雲2年造営の南向きの本殿がありますが、それ以前は「御蓋山」をご神体として祀り、古地図にも建物のない西向きの「神地」があったことが認められます。

三輪山の登拝では、まず摂社の狭井神社でお祓いを受けます。ここから先は禁足地で写真撮影や飲食は禁じられます。山裾に「辺津磐座」、中腹に「中津磐座」、頂上には大物主神の依代「奥津磐座」があります。かつて奥津磐座には杉の巨木が鬱蒼と立並び、苔むした磐座がいかにも神秘的でした。しかし、平成9年9月22日の台風7号で杉の巨木のほとんどが倒されて、見晴らしがよくなった反面、雰囲気は全く違ったものになっています。

三輪山の磐座の岩は「角閃斑糲岩」で大量に鉄を含んでいます。頂上から1/3はこの岩の層で、狭井川からは良質の砂鉄が検出され、周辺の兵主神社、穴師という地名からも鉄の生産との関連を指摘する(川上邦彦氏)説もあります。

ここで三輪山の祭祀について考えてみます。古くは、日の神や雨をもたらす雷神龍神を祀ったもので、起源は弥生あるいは縄文まで遡るとされています。山頂に日の神を祀る高宮神社があり、延

喜式に神日向(みわのひむかい)神社の名が残っています。

3世紀後半、初期ヤマト王権が成立すると、大王自ら三輪山の祀りを行ったと思われます。崇神天皇紀に「倭成す大物主神の醸みし酒」という歌がありますが、「ヤマト」とは三輪山の麓に広がる国を指し、「国つくりの神」が大物主神です。

崇神天皇紀6年に、疫病が流行して人々の大半が死んだり流亡したりする危機が発生します。神意を慮って、天皇は日の神「天照大神」を笠縫邑に、地主神の「倭大国魂神」を市磯邑に分祀しますが効果がありません。茅渟縣陶邑(ちぬのあがたのすえむら)の大田田根子(大物主神の子)を捜し出して、天皇の代わりに奉祭させることで、漸く疫病は終息します。ここで大物主神は国つくりの神から強い崇りの神と神格が変化します。

因みに、三輪山の祭祀遺跡の出土品は4世紀の後半まで遡りますが、中でも5世紀の須恵器が数多く発見されて、この説話を裏付けています。

大神神社を祀る太田田根子の子孫「三輪君」が歴史に登場するのは6世紀後半です。欽明天皇の時、仏教に対抗して三輪君逆(さこう)は大神祭(4月祭)を始め、次の敏達天皇に信頼され「悉く内外のことを委ね給いき」と日本書紀に記されています。天皇の殯宮の守備隊長として皇后の炊屋姫(のちの推古天皇)を守って活躍します。

壬申の乱では、三輪君武市麻呂が大活躍してその功で朝臣に叙せられますが、持統天皇の農繁時の伊勢行幸に職を賭して諫めたことで有名です。

記紀神話には、出雲の大国主命が自分の和魂(にぎたま)を大物主神の名で三輪山に鎮めたと記します。これについての考察は、昨年12月の「青垣春秋」に紹介しました。天つ神の代表の天照大神が伊勢国に遠ざけて祀られるのに対して、国つ神の大国主命・大物主神が、ヤマトの中心の三輪山に鎮座して、人々の信仰の中心になったことはなかなか興味深いことです。

## 三輪山

奈良盆地（国中）の東側・東山中の南端に位置し、標高467m・周囲16kmの美しい円錐形の山容で、『古事記』や『日本書記』には三諸山・御諸山・三諸岳等と称され、太古から神が鎮まる山として崇められる**神体山**。山に茂る木々の一本一本まで神が宿ると考えられ、今なおその木々に斧を入れる事は許されない。山体の地質は「角閃斑輝岩（カクセハルイガシ）苦鉄質鉱物」の岩の層で、大量に鉄分を含み浸食に強い性質のため、当時より山容を維持している。三輪山が最も美しく見えるのは中和～南和より見る姿で、その頂きから朝日が昇る時が荘厳に感じられ、神が住まわれる『**神奈備山**』として、弥生時代から信仰の対象とされてきた。山中に入ると古杉の大木が鬱蒼と茂り、「三輪の神杉」と称えられている。辺津磐座から中腹には**中津磐座**が在り、山頂には**奥津磐座**が迎えてくれる。これらの巨石群は天から神が降臨し、滞在されるという古代祭祀の遺跡で、磐座信仰の対象となっていた。山頂には大神神社の摂社・高宮神社が祀られる。山中は浄域のために**禁足地**として守られ、三輪山登拝は摂社「狭井神社」で三輪山参拝証を得て入山する。



三輪山

## 大神神社

### 祭神 大物主神

大物主神は出雲の**大国主神**の亦の名前で国作りを担当した分身とされ、国作りが成った後に、求めて御諸山（三輪山）に祀られた。神武天皇の後・比売多多良伊須気余理比売命（ヒメタライカヨリヒメミコト）は大物主神の娘とされる。

大和国の一の宮。『古事記』に「倭の青垣 東の山上に斎（イツ）きまつれ」、「日本書記」には崇神天皇（10代）の御世、疫病が蔓延して民衆の多くが命を落とす惨状に困り果てた天皇の夢枕に、大物主大神が現れ、『**意富多多泥古**（オホタナ）<大物主の曾孫>を**神主**に、御諸山（三輪山）に私を祀りなさい』と告げられ、大三輪の神を祀られた処、疫病は止み、天下泰平となった事から、神の山と崇められる。

『大三輪鎮座次第』には「古来宝倉なく、唯三箇鳥居あるのみ、**奥津磐座**は大物主大神、**中津磐座**は大己貴命（オホミタケノミコト）、**辺津磐座**は少彦名命」とあり、本殿は無く、奥津・中津・辺津の磐座を神の依代として、神体山である三輪山を拝む古来の信仰形態を継承しており、我が国最古の神社とされている。



大神神社 拝殿

現在の拝殿は寛文四年（1664年）に徳川四代将軍家綱が再建したもので、重要文化財に指定。拝殿の奥正面に有る**三つ鳥居**は、**三輪鳥居**とも呼ばれ古来当社の特色の一つとされる。

大神神社の社紋は三本の杉の木が横並びに描かれ、古代地名である**大御輪の神無備・真穂三諸山・甘嘗備の三諸山**に由来し、神の森の浄域を表している。



## 磐座神社（少彦名神社） 辺津磐座の一つ

### 祭神 少彦名神

社殿が無く、神の鎮まる堅固な磐座をご神坐として少彦名神を祀る。**神産巢日神**（カミムスビ）の御子、少彦名神は大国主神と出雲の国造りのために力を発揮され、共に医薬治療の法を定められた**薬の神様**として崇められる。お姿は天乃羅摩船（アマノカミヅネ）（ガガ 任の鞆の船）に乗る小さな神様で、まだ国作りも終わらないのに、常世の国に渡ってしまわれたとの由。



磐座神社

## 久延彦神社（知恵の神様）

### 祭神 久延毘古命

大国主神に少彦名神の名前を証言した「崩彦」(ヒビ)が「山田の曾富膳(ツボド)」と言われ、案山子の神様。

『足は行(アル)かねど、天下の事を尽(トト)に知れる』神様と言われ、歩く事は出来ないが、居ながらにして天下の事は何でも知っておられる神様で大国主神を助けた。知識が比類なく豊富なことより、『知恵の神様』として、広く受験・進学・就職等の成就をお守り下さる神様。



知恵ふくろう

## 大直彌子神社（若宮神社）

### 祭神 大直彌子命(オホナカノミコ)（意富多多泥古命） \* 日本書記では大田田根子



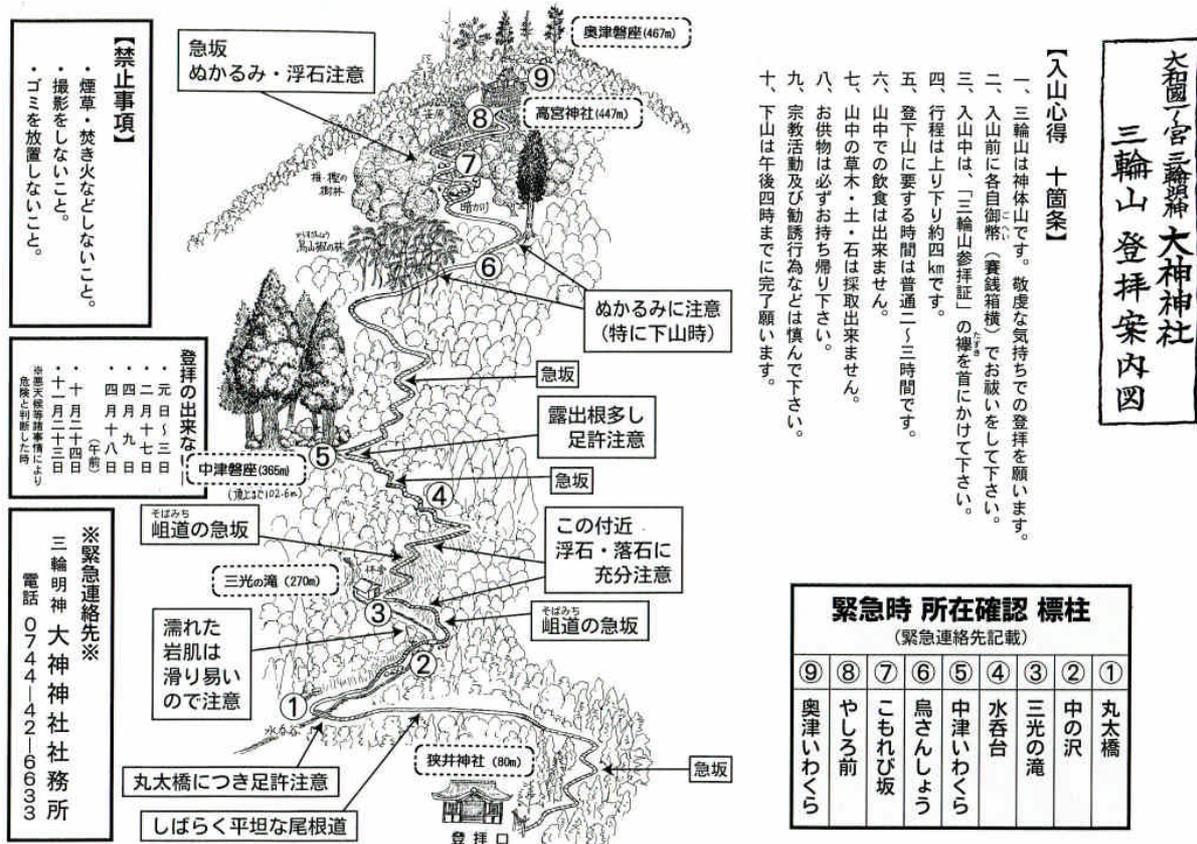
大直彌子神社

大物主神の曾孫 意富多多泥古命は崇神天皇に和泉国陶邑(スミタ)から召し出されて、大神神社の初代の神主となられ、大三輪大神・大物主神を三輪山にお祀りされる。

その後 意富多多泥古命は大直彌子神社に若宮様として祀られた。奈良時代には神仏習合で大神寺、のちに大御輪寺となり若宮様と十一面観音像が併祀された。

十一面観音像は現在、桜井市・聖林寺に慶応四年(1868年)に移され、国宝「乾漆十一面観音像」としてお祀りされている。

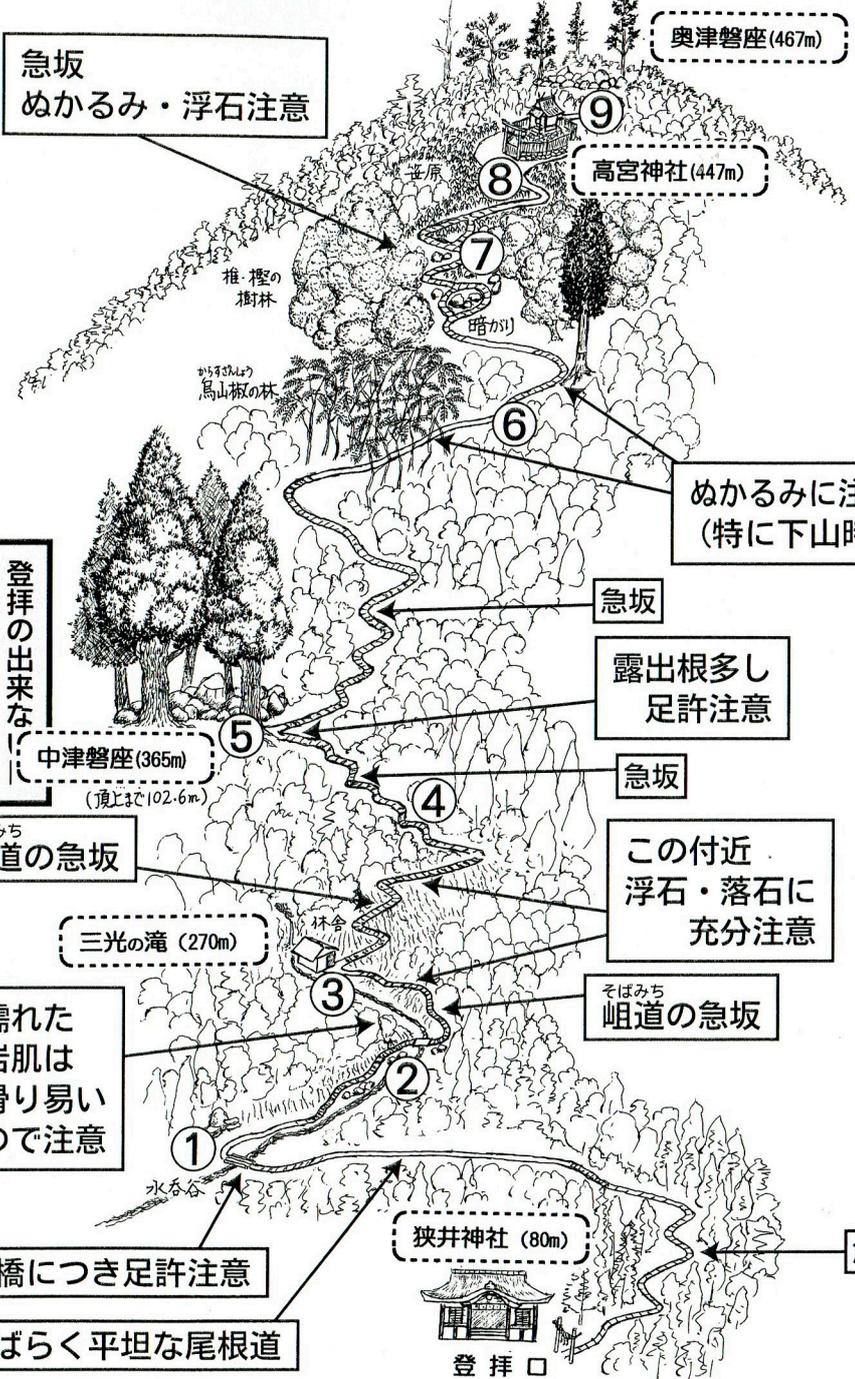
## 三輪山 登拝 案内図



# 大和國三輪大神神社 三輪山登拝案内図

## 【入山心得 十箇条】

- 一、三輪山は神体山です。敬虔な気持ちでの登拝を願います。
- 二、入山前に各自御幣（賽銭箱横）でお祓いをして下さい。
- 三、入山中は、「三輪山参拝証」の襷を首にかけて下さい。
- 四、行程は上り下り約4kmです。
- 五、登下山に要する時間は普通二〜三時間です。
- 六、山中での飲食は出来ません。
- 七、山中の草木・土・石は採取出来ません。
- 八、お供物は必ずお持ち帰り下さい。
- 九、宗教活動及び勧誘行為などは慎んで下さい。
- 十、下山は午後四時までに完了願います。



緊急時 所在確認 標柱 (緊急連絡先記載)								
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
奥津いわくら	やしろ前	こもれば坂	烏さんしょう	中津いわくら	水香台	三光の滝	中の沢	丸太橋

急坂  
ぬかるみ・浮石注意

奥津磐座(467m)

高宮神社(447m)

ぬかるみに注意  
(特に下山時)

露出根多し  
足許注意

中津磐座(365m)  
(頂上まで102.6m)

この付近  
浮石・落石に  
充分注意

三光の滝(270m)

濡れた  
岩肌は  
滑り易い  
ので注意

そばみち  
岨道の急坂

丸太橋につき足許注意

狭井神社(80m)

しばらく平坦な尾根道



登拝口

## 【禁止事項】

- ・煙草・焚き火などしないこと。
- ・撮影をしないこと。
- ・ゴミを放置しないこと。

## 登拝の出来ない日

- ・元日〜三日
  - ・二月十七日
  - ・四月九日
  - ・四月十八日
  - ・十月二十四日
  - ・十一月二十三日
- (午前)
- ※悪天候等諸事情により危険と判断した時

## ※緊急連絡先※

三輪明神 大神神社社務所  
電話 0744-42-6633

歴史文化クラブ 1月度オプション行事  
大神神社初詣と三輪山登拝

平成29年1月10日(火)

参加者名簿

	氏名	備考
1	青木 幸子	
2	内河 洋文	
3	太田 和則	
4	岸谷 和代	
5	小山喜与男	
6	下村 晴文	
7	塩本 勝也	
8	千載 輝重	
9	千載 久子	
10	竹本 雅昭	
11	辻本 信一	
12	辻本 愛子	
13	仲川 徹	
14	富井 忠雄	
15	永井 幸次	
16	中井 弘	担当世話人
17	西谷 範子	
18	西出 勉	
19	羽尻 嵩	
20	平山 義正	
21	福田 美伸	
22	古川 祐司	事務局
23	山本美智子	
24	渡辺 健造	
25	弓場 厚次	担当世話人
26		